

第42回たには祭「令和に芽吹くたには祭」

本学の秋の風物詩、「たには祭」が去る10月19日～20日の間で開催されました。19日初日は、雨模様となりましたが、オープニングセレモニーでは矢野学長の挨拶・地元南丹市西村市長様からの祝電披露及び日比実行委員長の挨拶でスタートし、20日は天候に恵まれ、たくさんの方々にご来場いただき無事盛大の内に終了することができました。今年のたには祭も、地域の地域と繋がる学園祭を目的の一つとし、地域の子供たちによるダンスショーや日吉町の保育所園児によるお絵かき展示会を催し、ご家族・ご親戚の皆様にも足を運んでいただきました。また恒例となりました「よしもとお笑いライブ」には『吉田たち』と『学天即』の漫才で爆笑し、また京都出身の注目アーティスト『Hakubi』のスペシャルライブで感動するなど大いに盛り上がりました。この第42回たには祭を開催するにあたり、地域・関係企業、同窓会・教育振興会・保護者の皆様など、関係各位にはご理解・ご協力・ご支援を賜りましたこと、実行委員一同心より感謝いたしますと共に、厚く御礼申し上げます。



米メジャーリーグトレーナー岡氏が来校



2019年12月11日(水)、本学院の卒業生(明治東洋医学院専門学校柔道整復学科1996年卒業)で現在、アメリカメジャーリーグ、アメリカン・リーグに所属するヒューストン・アストロズの球団トレーナー(セラピスト)として活動している岡克己氏が来校。「メジャーリーグにおけるメディカルスタッフの役割」と題した特別講演を行いました。講演には、アスレチックトレーナー部をはじめ準硬式野球部、メディカルアスレチックトレーナー講座受講生のほか、トレーナーを目指す鍼灸学科、柔道整復学科の学生などが多数参加。貴重な話に耳を傾けると共に質疑応答では多くの学生からたくさんの質問が寄せられました。岡氏は講演で、メジャーリーグでのトレーナーの役割や仕事の分担、日米の違い、自らがメジャーリーグで働くことになった経緯などを紹介。岡氏自身、卒業後は接骨院で勤務。院を訪れるプロ野球選手とのつながりを通じ、自らキャンプに向かうなど持ち前の行動力を第一のターニングポイントに挙げ、「興味を持ったものは自分の目で確かめたい性分。まずは行動を起こすこと。夢をつかむためには運も必要。それを引き寄せる準備をしておいてほしい」を力強く話します。トレーナーに必要なのは、メジャーの場合でも、医療人としての「診断力」、それに加え「協調性」や「コミュニケーション力」「場の空気を読む力」など、どんな職場で働く場合でも鍵となる要素だと言います。「海外で働く場合でも英語力は必要ですが、あまりナーバスになることはない。実際、私はほとんどしゃべれないまま渡りました」と振り返ります。アストロズは2017年にワールドシリーズも制しており、「夢のある仕事。現在はメジャーでも女性のトレーナーも増えてきており、諦めず強い意志をもって頑張ってください」と、トレーナーを目指す学生にエールを送りました。



看護学部[看護学科] * 保健医療学部[救急救命学科・柔道整復学科] * 鍼灸学部[鍼灸学科]
大学院[鍼灸学研究所・保健医療学研究所(2019年4月開設)]

〒629-0392 京都府南丹市日吉町 TEL0771-72-1183 FAX0771-72-1189 E-mail gakusei-shien@mst.meiji-u.ac.jp



財団法人日本高等
教育評価機構より
大学評価基準を
満たしていると認定
されました。

明治国際医療大学だより

Meiji University of Integrative Medicine News Letter Vol.20

大学情報誌



ご卒業、おめでとうございます!

3月16日、令和元年度卒業式・学位授与式が執り行われ、168名が未来に向かって新たな一歩を踏み出しました。きらきら輝く皆さんの笑顔は4年間で培ってきた自信に満ち溢れ、とても頼もしく感じられました。今後の皆様のご活躍を心よりお祈りいたします。本年度の式典は、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策の観点から、卒業生・修了生と教職員のみが式典に参加する入場制限を講じ、加えて式の進行を工夫し、できる限り短い時間で実施させていただきました。本来であればご家族、ご来賓、関係各位のご臨席のもとに盛大に挙行するところですが、このような形での開催となりましたことに対しまして、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

表彰者

学長賞	豆田 勝哉(鍼灸学科)	鍼灸学系大学協議会	納谷 和希(鍼灸学科)
学長賞	宮迫 晶矢(柔道整復学科)	日本鍼灸師会賞	松本 美佳(鍼灸学科)
学長賞	安井 優妃(看護学科)	全日本鍼灸マッサージ師会表彰	浅山 大輝(鍼灸学科)
特別功労賞	浅草 大耀(鍼灸学科)	日本柔道整復骨医学会賞	宮下 紗綾(柔道整復学科)
特別功労賞	浦川 璃子(柔道整復学科)	日本柔道整復師会会長賞	中村 太一(柔道整復学科)
特別功労賞	松川 容子(柔道整復学科)	日本私立看護系大学協会会長表彰	小池あづさ(看護学科)
全日本鍼灸学会 会長表彰	楊井 爽華(鍼灸学科)	京都府看護協会花束贈呈	磯中佐和子(看護学科)

看護学部トピックス

専門領域看護学実習 精神看護学実習・レクリエーション [3年生]

メンタルヘルスは社会問題の1つとして注目されています。心病む人達との関わりを通じて、学生達は“人”を慈しみケアする姿勢について真剣に学び考えています。

国家試験対策委員会 壮行会 [4年生]

これまで学生達は、助産師2/13(木)、保健師2/14(金)、看護師2/16(日)に行われる国家試験に向けて頑張ってきました。学生達は日々強まる不安・緊張の中、壮行会(2/3)を迎え教員一同から励ましの言葉をもらいました。3/19の朗報を待っています。



新学年に向けて

来年度、ついに全4学年が揃う

各学年、後期授業を終えて冬休みに入り、2・3年生は学外実習をこの期間に行います。2年生は山形県蔵王温泉スキー場でマウンテンレスキュー実習を、3年生は京都府・大阪府・滋賀県の病院で病院実習を行っています。

2年生のマウンテンレスキュー実習では、雪上における怪我や事故の予防法を学ぶとともに、実際に傷病者が発生した際の応急手当や資器材を使用した搬送方法などを雪山で体験します。また、学年全員が揃って行う実習はこれが最後になり、将来のことなど、普段の学校生活ではあまり語ることでできないことも仲間同士共有します。

3年生の病院実習では、1年生から学習してきた知識をさらに広げるために、医師、看護師、コメディカルから、医療処置だけではなく、医療人としての心構えや、あるべき姿などを学びます。実習室ではない本当の医療現場に立ち、実際に患者さんと関わり、命に携わることで、「救急救命」の厳しさや命を救うむずかしさを肌で感じる実習に、3年生1人1人が全力で立ち向かっています。

来年度で救急救命学科は1~4年生まで全学年が揃い、学科全体の学生数も200名を越えます。2・3年生はこの冬も、実習や勉強を通して、今後の救急救命学科を引っ張っていくリーダーとしての力を身に付けています。



救急救命学科の授業風景やイベントなどの情報を掲載していますので、ぜひご覧ください。

4年生国家試験合格祈願

日本最古の生身天満宮(南丹市)

令和2年1月9日(木)全国に約1万2000社ある天満宮の中で唯一、菅原道真公の存命中に木像を生祠として祀った日本最古の生身天満宮(南丹市園部町)に柔道整復学科4年生と教員が合格祈願に行ってきました。昨年度、本学の柔道整復学科4年生が受験した第27回柔道整復師国家試験の合格率は94.7%で関西圏の学校では第1位の成績でした。柔道整復師国家試験に合格するためには、必修問題が8割以上、一般問題(科目別問題)が6割以上ですが、今回より必修問題数が30問から50問に増え、各試験科目問題と合わせ230問から250問となります。必修問題の出題範囲については、各試験科目すべてから出題されるのではなく、「柔道整復術の基礎」「保険診療に関する知識」及び「関係法規に関する知識」などの範囲から出題され、ここを点数に結びつけることがポイントとなります。3月1日に実施されます第28回柔道整復師試験まであと少し、今年は合格率100%を目指して頑張りますので、ご支援のほど宜しくお願い致します。



柔道整復学科の授業風景やイベントなどの情報を掲載していますので、ぜひご覧ください。

地域との交流を通じて

南丹市学生交流プロジェクト 明治国際医療大学視察ツアー

2020年2月8日(土)、学生と一緒に地域を盛り上げたいと考えられている南丹市民を対象に、南丹市地域振興課主催、NPO法人テダス運営のもと、大学視察ツアーが開催されました。当日は少し雪がちらつくなか、30名の方に御参加いただき、鍼灸学科での取り組みについて紹介させて頂きました。鍼灸学科からは、就職活動を終え、卒業を間近に控える鍼灸学科4年生の知名智香さん、納谷和希さん、楊井爽華さんの3名が、4年間学んできたことをデモや体験を交えながらプレゼンテーションしてくれました。ツアーのテーマは「東洋医学を活用した健康法」と題して、養生の考え方や舌の状態から身体の状態を把握する舌診、身体バランスをチェックする閉眼足踏みチェック、卒業ゼミのテーマでもあるストレスに有効なツボの紹介などを行いました。御参加頂いた皆様や企画運営された方々からも大変ご好評頂き、質疑応答を通じて活発に交流することが出来ました。また、セミナー終了後の交流会でも多くの市民の方々とお話しする機会を頂き、地域の取り組みについて深く学ぶことが出来ました。今回の経験をもとに卒業後もそれぞれの道で活躍してくれることを期待しています。鍼灸学部では今後も地域の皆様との交流機会を増やして、地域の皆様の健康を支援していきたいと考えております。



鍼灸学科の授業風景やイベントなどの情報を掲載していますので、ぜひご覧ください。



修士論文発表会

大学院修士課程の2年間を振り返って

2019年度に本学大学院修士課程を卒業された堀優貴さん、ご卒業おめでとうございます。今後の活躍に期待しています。そこで堀さんに大学院の2年間を振り返った感想をお聞きました。

〈堀さんからのコメント〉

私は、学生時代に友人から美容鍼灸をしてほしいと頼まれることが多く、なぜ、人気があって、どんな効果があるのか。という疑問から美容鍼灸について研究をしたいと思います。学生時代の卒業研究では美容鍼灸に関する研究を行いました。自分自身の知識のなさや、研究の難しさを痛感しました。そこで、もっと研究がしたい、「わからないことを少しでもわかるになりたい」と思い、大学院への進学を決めました。1年目は美容鍼灸の研究をしつつ、美容に関する基礎知識や研究の仕方、物事の考え方や捉え方を学びました。2年目に入ってから修士論文に向けて、美容鍼灸が顔の形や動きにどんな影響を及ぼすのかを研究し、顔にする鍼が「肌のキメ」に影響を与える可能性を発見しました。しかし、まだまだ分からないことや、疑問は残っています。ですので、今後もこれまでの経験を活かして研究を続けていきたいと考えています。



修士論文発表会の様子

修士論文発表会

大学院修士課程の2年間を振り返って

2019年4月に本学大学院に保健医療学研究科柔道整復学専攻が新たに設置されました。その栄えある第1期生で、本学保健医療学部柔道整復学科の卒業生でもある深尾遼平さんに、柔道整復学の大学院に進んだ理由や、大学院1年目でのどのようなことを学んだかをお聞きました。

〈深尾さんからのコメント〉

私がまだ学部生だった頃、国家試験合格というのが大きな目的であり、勉強とは目的達成の手段に過ぎませんでした。しかし、その手段の中で、「知らないことを知る喜び」、「分からないことを調べる楽しさ」という感情が芽生えはじめ、いつしか勉強は研究へと名前を変え、「手段」から「目的」へと変化しました。これが、私が大学院への進学を決めた理由です。修士課程2年間の内、早くも1年が経ちました。基礎的な研究手法や研究的思考を身に付ける講義はもちろん、外国の講師の方を招いた「国際コミュニケーション演習」や、外部の医療施設を訪問し、研究的視点から臨床現場を見学する「インターンシップ演習」など、自身の視野を大きく広げるカリキュラムが用意されており、非常に充実した1年間だったと思います。これらの経験を糧に、残り1年間で新しい「目的達成」に向かって、より一層努力していきます。



発表する深尾さん



本学初の
なでしこ&Vリーガーが誕生
夢を叶え、新たな舞台へ

なでしこリーグ
URAKWA RIKO

浦川璃子

なでしこリーグ1部 アルビレックス新潟レディース
柔道整復学科4年 / 女子サッカー部

Vリーグ
ASAKUSA TAIYO

浅草大燿

男子Vリーグ2部 兵庫デルフィーノ
鍼灸学科4年 / 男子バレーボール部

男子バレーボール部の浅草大燿選手(鍼灸学科4年)が男子Vリーグ2部の兵庫デルフィーノ、女子サッカー部の浦川璃子選手(柔道整復学科4年)がなでしこリーグ1部のアルビレックス新潟レディースにそれぞれ入団が決まりました。いずれも本学初となるVリーガー、なでしこリーガーとなります。浦川選手の背番号は「28」、リーグでもトップクラスとなる180cmの長身を活かした空中戦を得意としており、ディフェンスはもちろん高い攻撃力でチームへの貢献が期待されています。また、浅草選手は3年次にはり師・きゅう師の国家試験に合格している関係もあり、選手兼トレーナーというVリーグでも極めて珍しい登録となっています。2019年の12月にすでにリーグデビューを果たしており主軸として活躍しています。ここでは、夢を叶え上位リーグにチャレンジするふたりに、大学での4年間、成長の軌跡や今後の目標などについて話を聞きました。

INTERVIEW

— 上位リーグでプレーすることが決まった今の感想は？ —

浅草 すでにリーグでプレーしていますが、大学との実力差を感じつつも、スピードやパワー面などにも徐々に慣れ、課題も見えてきていますので、やっていける手応えはあります。トレーナーとのダブル登録なので、自分の持ち味を活かし、チームと共に成長していければと思います。

浦川 背番号も決まり、新しいチームの練習にも参加させていただき、このチームでプレーするんだという実感が強くなりました。地域の皆さんからすぐ愛され応援されているチームでもあり、活躍して喜んでもらえるよう頑張りたいです。

— 4年間を振り返り、何が成長につながったと思われますか？ —

浦川 大学で身体のことを深く学びプレーの幅が広がりました。また高校まではケガが多く納得した結果が残せませんでしたが、自分で考えてトレーニングに打ち込むことができるようになったことで、ケガも減り、フィジカル面も向上しました。こうした日々の積み重ねが上位リーグ入りにつながったと思っています。

浅草 大好きなバレーボールを続けるためには、しっかり勉強もしないと行けなかったのが、自然と相乗効果となり、無理なく両立できたと感じています。目的・目標をきちんと定め、そのために今何をしなくてはいけないかを考えて生活できるようになったことが大きいですね。これは、将来、選手のパフォーマンスを向上させることのできるトレーナーになるという目標にもつながっていると思っています。

浦川 思い出に残っている授業・実習は、接骨院などでの臨床実習です。患者様への声掛けや接し方、処置法などいろいろなケース・パターンがあり、

それを実際に見学することで、いろいろな気づきがありました。

浅草 それまではどちらかというとバレーボール中心でしたが、3年で国家試験に合格したことで、医療人としての自覚も芽生え、将来の目標もより明確になりました。確かに大学での勉強は高校までとは違い、初めて学ぶことが多く大変ですが、どれも競技や自分の将来に直結する学びなので、苦にはなりませんでしたが、かえって自分のパフォーマンスアップにつながるが多かったと思います。

— 後輩や高校生にメッセージをお願いします。 —

浅草 実際、スポーツだけを目指すのであれな、他大学の道もあると思います。でも、スポーツの強豪大学に行かなくても、自分の努力次第で上を目指せる。環境やレベルのせいにするのではなく、自分が決めた目標に向かって突き進む。本学は、サポート面は充実しており、勉強、スポーツに打ち込むことができました。それをプレずにやってきたことが国家試験の合格、大学リーグでの結果、Vリーグにつながったと思います。皆さんも自分の夢や目標に向かって頑張ってください。

浦川 私も本学に入学するまでは、ほとんど柔道整復師のことも知りませんでした。先ほどお話ししましたが、身体の使い方や動かし方、動作の仕組みなどについて知ること、競技、プレーに対する考え方、発想もすごく変わりました。この大学に来ていなければ気が付かなかったことだったと思いますし、この経験を今後のサッカー人生、引退後の目標に活かしていきたいと考えています。医療大学ならではの気付きや発見があると思うので、それを成長の土台に頑張りたいと思います。

岩井直躬名誉学長が 英国医師会の医学出版賞2019を受賞



英国医師会が医学分野の優良書に対して贈る権威ある出版賞2019 (Medical Book Awards 2019)の選考結果が9月3日にロンドンで発表され、岩井直躬名誉学長が英国・リバプール大のポール・ロスティ教授等と編集した小児外科学の教科書「Rickham's Neonatal Surgery」が外科部門で高く評価され、受賞しました。同教科書は小児外科学の世界の二大教科書の一つとされ、英国の医学出版社であるSpringer社 から上下巻(約1400ページ)が刊行されました(写真)。また明治国際医療大の学長時代の約4年にわたって作成し、完成した教科書です。

救急救命技術学内選手権大会を開催

11月7日(木)に第1回救急救命技術学内選手権大会を開催しました。この大会は、11月30日(土)に開催される第12回西日本学生救急救命技術選手権大会に出場するチームを選出する予選会として実施しました。CPA・外傷・内因性を想定して、救急救命学科の学生3チームが出場しました。この大会を通し、選手権大会や今後目指すべき救急救命士像を育ませる良い機会となりました。



国際学術交流会を開催

去る10月30日(水)、31日(木)の2日間にわたりポルトガルより3名の講師をお招きして第25回国際学術交流講演会を開催しました。

1日目は世界最大級のスポーツクラブとして知られているSports Lisboa e Benficaの診療部長であり、ポルトガルオリンピック委員会のチーフドクターでもあるJoão Pereira Almeida先生に「ポルトガルにおけるサッカーの医学的側面」と題して講演をいただきました。世界サッカー連盟(FIFA)のランキングで第6位の好成績を収めているポルトガルのサッカーチームの背景にはアルメイダ先生が長年培ってきたトレーニング理論や予防医学的な身体のケアの実践が大きく係わっており、一流アスリートの育成プログラムについて具体的な興味深い話を聞くことが出来ました。

引き続きポルトガルオリンピック委員会のドーピング部門の責任者として活躍されているMaria João Cascais先生に「アスリートの病気とドーピングにいかに対処するか」をテーマにご講演いただきました。ドーピングの及ぼす健康被害について具体的な例を挙げて紹介され、薬物が使えない場合の対処として鍼治療が有益であることも強調されました。

今回の講演会は、通訳なしで英語のみの講演でしたが、日本語の配布資料や司会者が適宜、日本語で解説を加えたことにより分かり易い内容になったと思われます。会場は立ち見ができるほどとなり、講演後は学術交流として講演内容やポルトガルに関する質疑が活発に行われ、ポルトガルでのスポーツ事情について理解を深めることができる良い機会となりました。

また、2日目はリスボン在住のTSUCHIYAペインクリニック院長の土屋光春先生に「さまざまな難治性疾患に対する鍼治療」として、主に鍼灸学科の上級生と大学院生約50名を対象として講演と実技供覧をしていただきました。また、その後、数名の参加学生が抱える個別の症状に対する電気針治療の体験治療が行われました。鍼治療は一回で終わることはまれで繰り返しの治療が重要であり、それを理解いただくためには信頼を得ることが大切との言葉がありました。



日本・ベトナム学術交流セミナー および国際学術交流協定調印式を開催

2019年11月12日(火)、明治国際医療大学(京都府南丹市)で日本・ベトナム学術交流セミナーおよび国際学術交流協定調印式を行いました。日越学術交流セミナーには、来日中のベトナム国立鍼灸病院のチャン・ヴァン・タイン院長、ベトナム国立伝統医学病院のヴァン・ナム院長、ベトナム国立伝統医学大学のフアン・クオック・ビン副学長、ベトナム国立ホーチミン市伝統医学病院のチュオン・ティ・ゴック・ラン副院長らベトナム伝統医学の代表者、日本側から公益財団法人国際医療技術財団の小西恵一理事長、公益社団法人日本鍼灸師会の南治成副会長、寺川華奈先生、仲野弥和前会長、本学から矢野忠学長、川喜田健司教授(国際交流推進センター長)などが出席。開会にあたり矢野学長が「本学において日越の伝統医学、なかでも鍼灸分野に関する学術交流を深めることができるともうれしく思います」と挨拶。セミナーでは、鍼灸デモンストレーションとして本学の和辻直教授、山崎翼講師が伝統医学的および現代医学的鍼灸治療を披露したほか、川喜田教授、梅田雅宏教授、伊藤和憲鍼灸学部長がそれぞれ本学の研究を紹介。ベトナム側からはナム院長が「ベトナムの鍼灸事情と鍼灸研究の現状」を紹介するなど、活発な意見交換を交わすと共に交流を深めました。

協定調印式には、今回協定を結ぶタイン院長、ナム院長、ビン副学長、小西理事長、矢野学長が出席。小西理事長から「2016年に鍼灸に関する医療協力プロジェクトを目的とした覚書を交わして以降、国際セミナーの開催など交流を深めてきました。今回ベトナム側から実務レベルでの交流協定の要請があり、伝統医学分野における国際協力と学術研究の交流を目的に、ベトナムを代表する伝統医学の病院・大学と日本を代表する鍼灸の教育・研究機関である明治国際医療大学との間で協定を結ぶことになりました」と背景などの説明があり、協定締結を契機に、両国間の発展に向け、取り組んでいくことを誓いました。[越 ベトナム]



(左から)ナム院長 タイン院長 矢野学長 ビン副学長 小西理事長



研究紹介の様子



デモンストレーション